

## 術後感染予防における抗菌薬の適正使用法について

綿貫浩一 菅原一真 山下裕司

山口大学耳鼻咽喉科

周術期における抗菌薬の予防的投与については、その必要性や適性について依然として結論が得られておらず、経験的に対処することが多い。最近では、注射薬と同等あるいはそれ以上の抗菌力と抗菌スペクトルを有する内服薬が開発されてきている。しかし周術期における内服薬の投与は困難であり、特に術中の内服は不可能である。そこで濃度依存性抗菌薬を前日から使用すれば、術中・術直後に内服しなくても十分な有効血中濃度を保つことが可能となる。これまでに我々は、鼻科手術や頸部小手術に代表される短期入院手術における術後感染予防に内服薬を用いて、注射薬と内服薬、長期投与と短期投与、術後投与の有無などで比較検討したが決定的な差は認められなかった。

今回はこれまでの経緯を踏まえ、本当に必要な抗菌薬の投与日数、つまり適正日数の検討を含め報告する予定である。